

県外派遣報告書

審判員名	小柳 幸子	所属	ミニ連
大会名	平成25年度 関東高等学校女子バスケットボール大会 第67回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会		
期間	平成25年6月8日(土)～9日(日)		
会場	東京体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
6月7日	審判会議	新宿ニューシティホテル	
6月8日	1・2回戦	東京体育館	
6月9日	準決勝・決勝	東京体育館	
会議 講義 内容			
<p>東京都バスケットボール協会 審判委員長:久保裕紀氏、東京都高体連バスケットボール女子専門部 審判委員長:野口浩正氏より、本大会を開催するにあたっての準備に関するお話や、本大会を多くの情報交換の場として3日間、有意義に過ごして頂きたい等、歓迎のご挨拶を頂きました。関東バスケットボール協会 審判委員長:安西郷史氏からは、チームの様々な目標はあるが、チームの意図を読みながらも、毅然とコートに立ち続けるよう、お話を頂きました。</p> <p>また、指名審判員の茂泉圭治氏より、『試合で、いつも注意していること・心掛けていること』についてのレクチャーがありました。相手と協力して運営し、スムーズな進行＝始めて進めて終わる事の重要性。個々の課題をクリアすることで、目標・理想像ができてくる。その繰り返し。個々のステップは異なっても、私たちの進むベクトルは一緒であるとの、お話を頂きました。</p> <p>同じく指名審判員の山田巧氏より、今以上の事はできない・外からの目は気にせず、自分の思ったもの感じたものをオンザコートで表現していくようお話を頂きました。</p> <p>また最終日の朝には、山田巧氏による”コーチと審判の関係”についてのレクチャーがありましたが、実技の関係で参加できず、大変残念でした。</p>			
実技			
担当試合	期 日	2013年6月8日(土)	女子 Aブロック2回戦
	対戦カード	神奈川県立旭 VS 栃木県立宇都宮中央女子	主審 副審
	相手審判	久保 裕紀 氏(東京)	
ミーティング内容		主任 佐田 幸一 氏(山梨)	
<p>開始間もない段階での判定。1試合通しての基準として、アンスポを宣する必要があったのか。早い段階での基準を示す事は重要だが、ベンチ・プレイヤー・観衆も含め、見極める事が必要。シュート後のスペースの捉え方、リバウンドについては、リードの時にスペースをきちんと確認できず、トレイルから助けもらったケースがあった。リードが近い時に、確認できていない。ブラインドにならず判定できる位置へ、プレイヤーの位置や状況に合わせてスペースを捉え続ける工夫が必要。1試合通して、臆せずに判定し続けていた事は良かった。</p>			

実技			
担当試合	期 日	2013年6月9日(日)	女子
	対戦カード	茨城県立竜ヶ崎第二 VS 船橋市立船橋	Bブロック 準決勝
	相手審判	R:大庭 英裕 氏(神奈川) / U1:望月 由希子 氏(東京)	
ミーティング内容		主任 須黒 祥子 氏(東京)	
<p>任せる所、行かなければいけない所、パートナーが困っている時に協力できたか。3人制の意味を、きちんと整理する。始まりのヴァイオレーションの判定が一貫していなかった為、ベンチへの不信感に繋がった。パートナーとの判定の一致、チームの意図を読んで、一貫した判定力を身につける。ベンチ管理・ゲーム管理・プレイヤーの管理に、もっと気を配る。ベンチへの対応は、丁寧に説明する事が必要な時もある。アンフェアなゲームにならないよう、プレイヤーに注意を促したり、ベンチへの注意の必要性があった。トレイルからのドライブに対しての対応を、各ポジションで理解して判定する事。ブラインドコールがあったので、絶対になくす事。</p>			
全体の感想			
<p>ゲームの始まりの判定の重要性を再認識しました。一つの判定が、チーム・ベンチとの不信感と変わってしまう事もある。状況を理解し、必ずしもルールに従う事が全てでは無いのだと実感しました。3パーソンでのメカニックは再度確認する必要がある。判定基準については、かなりの修正が必要である。落ち着いて判定をし続けられる為には、早くにチームの意図・ゲームを掌握しなければならない。多くの経験を積み、目標・課題をその都度クリアしていけるよう、努力していきたいと思えます。</p> <p>本大会では、東京都の皆様には、細部にまでご配慮を頂き感謝致します。この場をお借りして、御礼申し上げます。また、この経験を、県内の活動や指導に貢献できるよう、取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。</p>			